

緊急避難斜路の整備による災害時の避難路確保

5か年加速化対策

国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

災害時の効果発揮事例

概要 要: 5か年加速化対策により避難施設(避難路)等の整備を実施することで、津波予測浸水深よりも高い位置にある緊急避難場所までの経路を確保する。

令和7年7月のカムチャツカ半島付近で発生した地震による津波警報発表時に緊急避難場所として活用された。

対策名 : 53 道路の高架区間等を活用した津波や洪水からの浸水避難対策<5か年加速化対策>【国土交通省】

■ 実施主体: 国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

■ 実施場所: 北海道勇払郡厚真町

■ 事業概要: 北海道勇払郡厚真町は、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震による津波被害が想定されており、津波発生時の緊急避難場所を確保するため、予測浸水深よりも高い位置に整備された日高自動車道の高架区間等を緊急避難場所としている。災害発生時に、当該緊急避難場所への避難を安全かつ速やかに行えるよう、避難通路(スロープ)を整備した。

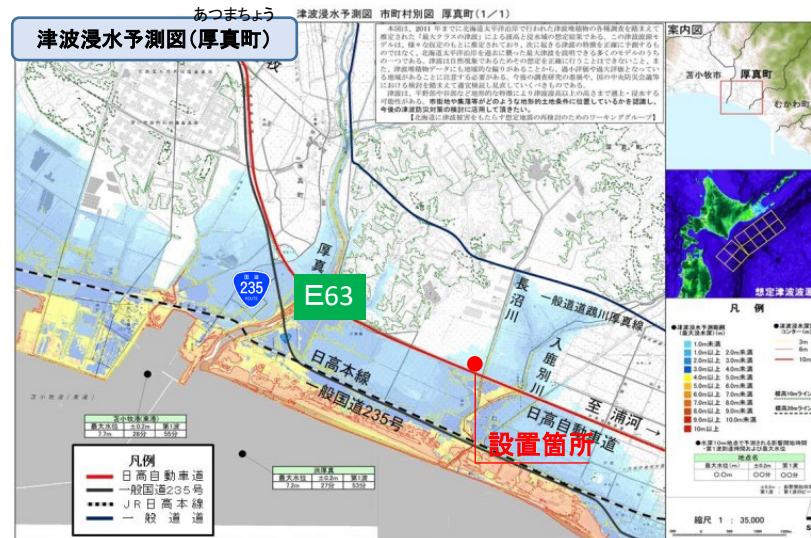
■ 事業費: 0.5億円(令和3年度)
(うち5か年加速化対策(加速化分)0.5億円)

■ 効果: 令和7年7月のカムチャツカ半島付近で発生した地震による津波警報発表時、本事業により整備した避難通路(スロープ)を使用し、8名が予測浸水深よりも高い位置に整備された日高自動車道の緊急避難場所に避難した。

【対策内容】



【位置図】



5か年加速化対策による避難通路(スロープ)の設置

この地図は、国土情報課長の承認を経て、関係機関の整備地図(20000:地図スケール)を複製したものである。(複製番号 H23補修_第002号)

しおみがおかこうえん
潮見ヶ丘公園(体育館)の耐震化・老朽化対策の実施により
利用者や避難者に安全で快適な施設を提供

概要: 潮見ヶ丘公園の体育館の改修・耐震化を実施したことにより、令和7年のカムチャツカ半島付近を震源とする地震において施設被害を防止し、多数の住民の避難場所として効果を発揮。

府省庁名: 国土交通省

- 実施主体: 北海道浦河郡浦河町
- 実施場所: 北海道浦河郡浦河町
- 事業概要: 潮見ヶ丘公園内に配置している体育館は、昭和48年に建設されたものの、築50年以上が経過し、平成29年度の構造等劣化調査により、「大きな地震(震度6強以上)に対して倒壊する危険性が高い」と診断。災害時には最大730人収容可能な指定緊急避難場所であり、建物倒壊がなく安全な場所である必要があるため、長寿命化工事を行うとともに耐震化工事を実施。
- 事業費: 約22億円(令和4~6年度)
- 災害の外力、被害と効果: 令和7年7月30日に発生したカムチャツカ半島付近を震源とするマグニチュード8.7(浦河町は震度なし)の巨大地震が発生し、太平洋沿岸に津波警報が発令された。当町では「緊急安全確保」を発表し、避難場所となっている体育館には約300人の住民が避難した。幸い津波による被害はなかったが、長寿命化工事と耐震工事の実施により、大規模地震による建物被害及び人的被害を未然に防止し、避難者が安全で快適に利用することができた。



屋根部は弦材・ラチス材等のプレートによる補強

ブレース(筋交い)による補強

○耐震壁の増設による補強やアリーナ部分は主にブレース(筋交い)による補強を実施

